

二 反 対 同 盟 主 催 二 動 労 千 葉 激 励 交 流 会 圧 倒 的 成 功 か ち と る ！

日 刊 動 労 千 葉

81.8.26

No. 829

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八乗) 電話三三二七二〇七

三里塚・ジェットを闘うが故の弾圧を粉碎しよう

台風一過の八月二十四日、19時半から北総台地の反対同盟・東峰出荷場で、三里塚芝山連合空港反対同盟と動労千葉との交流会がなごやかにかつ熱気あふれるふん囲気の中で行われた。今回の交流は、動労千葉が「本部」反動分子の「6・12津田沼事件」デッチあげ・告訴と、これに便乗した権力の不当逮捕・長期勾留・三名への不当起訴攻撃と真向から対決し勝利的に闘いぬいていることに対して、反対同盟からの激励会として計画され、実現されたものである。

反対同盟70名から温い激励うける

秋の気配のただよう東峰出荷場に、19時すぎから反対同盟と支援の仲間が続々と集まり、激励・交流会が開始されたときは、石橋副委員長、北原事務局長以下七十名近い結集となった。

動労千葉からは、布施副委員長と津田沼支部・片岡支部長、重見書記長、吉岡青年部長が参加し、北原事務局長の「動労千葉がこの不当弾圧をはねのけ、元気に闘っていることは、三里塚闘争全体にとって限らない激ましである。同盟はこの不当弾圧に対し、動労千葉と共に闘ってきたが、本日の激励・交流を一つの出发点に、労農同盟をますます強めて闘ってゆきたい」という開会のあいさつで集会は開始された。

告訴の暴挙に、腹わたが煮えくり返る！

冒頭、反対同盟・石橋副委員長から、大要、次のようなあいさつが行われた。

「今回の動労千葉に対する不当弾圧は、動労千葉が三里塚・ジェット闘争を闘うが故にかけられてきた弾圧である。動労『本部』革マル分子の、労働者の仮面をかぶった告訴の暴挙を考える時、腹わたの煮えくり返る思いがする。『国鉄労働者が鉄路を武器に、農民が農地を武器に』というわれわれの闘いの正義性と力は、逆に、今回の動労千葉への不当弾圧でより一層鮮明となった。今後この力と正義性を守り、より強めてゆくことを通して、二期工事粉砕・三里塚空港廃港をかちとつてゆこう。同盟は10・11集会を頂点とする今秋の闘いを全力でとり組み、あらゆる形で動労千葉支援の闘いを展開したい」

「本部」反動分子・土屋一派を職場から必ずや一掃する！

続いて、動労千葉布施副委員長から、この間の同盟の支援とわざわざ心暖まる激励・交流会を設定されたことに対するお礼が述べられた。布施副委員長は「6・12事件」デッチあげをもつて権力

当局的弾圧を要請し、動労千葉の組織と闘いをつぶそうと策動した動労「本部」革マル反動分子への煮えたぎる怒りもあらわに報告にたち、「われわれはこの攻撃を『80年代に勝利してゆくための試練、突破口』として積極的に位置づけ闘った。六名の完黙・非転向の闘いを先頭に、17日間のにべ千五百名の動員に示される全組合員総決起を実現し勝利した。この力を更に強め、十月九・十日の動労千葉第六回定期大会で、労農連帯・三里塚ジェット闘争貫徹反合・35万人体制粉砕を基軸とした路線と体制をうち固め、なによりも、全労働者の敵『本部』革マル反動分子追放・一掃・動労大改革・労働運動の戦闘的再生をかちとつてゆく方針を確立し、前進してゆきたい。『告訴・弾圧』路線に託した反動分子の狙いを真正面からたたきつぶして見せるものとして、10・11三里塚現地集会へ最大限の総結集をかちとつてゆきたい」と、動労千葉の闘う決意を明らかにした。

強められた 労農連帯のキズナ

そして、片岡支部長、重見書記長、吉岡青年部長の順で、この間のお礼と勾留中動労千葉の闘いにより確信を深めた経験談、「本部」反動分子が、告訴という腐り切った手段で権力の手を借りてわれわれ十名を職場から追い出そうとする以上、われわれが職場で生き残るのか、『本部』が生き残るのかをかけた闘いである。こんなことで負けてたまるか。絶対に勝利してみせる。」と、各々の固い決意が明らかにされた。

反合・三里塚勝利へ、今秋共に総決起せん

この交流を通して更に強化された労農連帯のキズナを力に、反合・三里塚ジェット闘争勝利、三名への不当起訴粉砕、「本部」反動分子・土屋一派解体一掃・動労大改革へ、さらに前進しよう。9・6三里塚を突破口に、全力で10・11へ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！